規　約

1　『筑波大学先史学・考古学研究』は，筑波大学人文社会科学研究科先史学・考古学コースの研究誌として，先史学・考古学関係の論文，資料などを掲載し，研究の推進を図ることを目的としています。
2　寄稿者は，筑波大学関係者及び研究協力者とします。
3　投稿，依頼いずれの場合でも，寄稿された原稿の採否は編集委員会で審査し，決定いたします。また，書き直しをお願いすることがあります。
4　外国語で発表を希望される場合は，事前に編集委員会に御相談ください。
5　寄稿された論文等は，大学リポジトリを通じて次年度以降に電子化し公開されます。寄稿者は，その点に同意のうえ投稿してください。また，原稿に含まれる全てのテキスト，図版・写真等に関する権利は，筑波大学人文社会科学研究科先史学・考古学コースに帰属するものとします。そのため，原稿中に使用する予定の図版，写真等については，筆者の責任下において権利を獲得したもののみを投稿してください。
6　当面は，年1回の刊行とし，原稿の締め切りは毎年10月31日とします。
7　執筆要項は，『筑波大学先史学・考古学研究』編集委員会（〒305-8571　つくば市天王台1-1-1 筑波大学人文社会科学研究科先史学・考古学コース内　☎029-853-4044，もしくは　tap1973@hotmail.co.jp）まで御請求願います。

『筑波大学先史学・考古学研究』執筆要項

1　『筑波大学先史学・考古学研究』の原稿の内容，分量（写真・図・表を含む）は以下の通りとします。なお，原稿枚数が超過すると見込まれる場合は，事前に編集委員会に御相談ください。

論　　文	新しい資料又は手法，視点に立って学術水準の新たな地平を拓く研究。20,000字以下とする。
研究ノート	まとまった研究（論文）の完成にむけて予備的に報告し，あるいは研究における新たな視点，手法などを公表することによって，そのテーマに関心を持つ研究者からの助言や協力を求めようとするもの。10,000字以下とする。
調査報告	発掘調査などの経過報告と，全体的な資料の紹介および評価。20,000字以下とする。
資料紹介	さまざまな種類の研究資料について紹介し，学術的な意義について注意を喚起するもの。10,000字以下とする。

2　原稿は原則としてパーソナルコンピュータで作成してください。手書き原稿の場合は，事前に編集委員会に御相談ください。
3　原稿は42字詰35行で作成し，全てのデータ（本文ファイル，写真・図・表ファイル，レイアウトファイル）を収めたCD-R等のメディアと提出してください。その際，レイアウトファイルについてはA4版に印刷したものを必ず提出してください。
4　原稿表紙には，題名およびその英訳，執筆者氏名とそのローマ字綴り，所属機関名を記してください。
5　論文および研究ノートについては，600字以内の日本語要旨と，英文要旨を必ず添えてください。
6　漢字は新字体としますが，常用漢字表には拘束されません。仮名遣いは原則として新仮名遣いとします。
7　外国の固有名詞・人名は片仮名で書き，初出の個所は括弧内に欧字で記してください。
　例　カリム・シャヒル（Karim Shahir）
　　トインビー（A. J. Toynbee）

ただし，極めて一般的な場合には必要ありません。

8　章，節，項は以下の原則により作成してください。ただし，必要上原則により難い場合は，理由を説明してください。

例　Ⅲ．分析と考察

1．土器型式からみた周辺地域とのかかわり

（1）浜中2遺跡出土土器の型式

9　註は，本文右肩に1)，2)，…の番号を付し，文末に一括してください。

10　引用文献は，本文又は註の中に（　）を入れて，著者姓，刊行年（西暦）：該当頁数を記してください。同じ著者で同一年に複数の文献がある場合には，刊行年の後に刊行順にa・b・c…を付してください。

例　外国語文献の場合…の例がみられる（Wheeler 1954：pp. 21-22）。

日本語文献の場合…と指摘していることが注目される（藤本 1988b：4-6頁）。

複数の著者の文献を併記する場合には，カンマ（,）で区切ってください。

例　…可能性が高いと指摘した（森 1965，柳沢 1989）。

例　…数例が挙げられている（Chemykh 1992：p120・p137，松本 2011：141頁）。

11　文献目録は最末尾に一括し，以下の原則により作成してください。ただし，必要上原則により難い場合は，理由を明記してください。

(1) 配列は著者姓のアルファベット順又は五十音順としますが，洋書と和漢書の数が共に多い場合は，別々にまとめてください。

(2) 記載の順は，(6) の例を参照ください。国内文献は出版地を省略しても差し支えありません。

(3) 雑誌については，原則的に出版地，出版社は省略してください。また，大学・博物館紀要は，大学名・博物館名を入れるようにしてください。

(4) 復刻版，2版以後の版本を用いた場合は，初刊行年を〔　〕で表記し，版次を示してください。

(5) 欧文の場合，書・誌名は斜体にするか下線を付してください。
和漢書の場合，論文表題には「　」，書・誌名には『　』を付してください。

(6) 翻訳書を用いた場合は，原書について≪　≫内に (1) により記してください。

例　浅野　清　1953　『法隆寺建築綜観』京都大学文学部考古学叢書　第1冊　京都　便利堂.

小林行雄　1957　8版〔1951〕『日本考古学概説』東京　創元社.

ラウス．I．1974　『先史学の基礎理論』鈴木公雄訳，雄山閣出版≪ Rouse, I., Introduction to Prehistory. New York: McGraw-Hill book Company. ≫.

中村国香　1791　（宝暦11）「房総志料」改定房総叢書刊行会編『改定房総叢書』第3輯　1959〔1941〕同刊行会.

藤本弥城　1988　「茨城県広畑貝塚の晩期縄文土器」『考古学雑誌』第73巻第4号　1-35頁.

森　郁夫　1987　「第Ⅲ章　調査経過と概要」奈良国立文化財研究所編『薬師寺発掘調査報告』本文　奈良国立文化財研究所学報第45冊　奈良国立文化財研究所　16-22頁.

Carly, E. R. 1971 Analyses of some metal artifacts from ancient Afghanistan. In R. H. Brill (ed.), *Science and Archaeology.* Cambridge, MIT Press, pp. 106-113.

Keeley, L. H. 1974 Technique and methodology in microwear studies: a critical review. *World Archaeology* 5-3, pp. 323-336.

Wheeler, R. E. M. 1954 *Archaeology from the Earth*. London, Oxford University Press.

12　写真はモノクロームを原則とします。写真，図，表は縮尺を指定してください。仕上がり寸法は表題も含めて，縦20.6cm，横13.4cm以内に収めてください。なお，写真の掲載に関してアート紙を希望する場合は，事前に編集委員会に御相談ください。

13　写真，図，表については，参考文献の後に「出典一覧」などの形式で典拠を明示してください。